

## 学会参加記

2013 年 視覚と眼科学研究協会会議に参加して  
Association for Research in Vision and Ophthalmology 2013

馬 詰 和比古

Kazuhiko UMAZUME

東京医科大学眼科学講座

私は、平成 25 年 5 月 5 日から 5 月 9 日まで、米国 Seattle で開催された視覚と眼科学研究協会会議 (Association for Research in Vision and Ophthalmology 2013 : ARVO2013) に参加してまいりました。

例年 ARVO は、フロリダ州の Fort Lauderdale というリゾート地で行われ、参加者も短パンに T シャツの装いで、空き時間にはビーチに向かうといった楽しみがある学会でありました。私もその学会に 2009 年から参加させて頂き、醍醐味を知っていただけに、アメリカ東部北端の Seattle に開催地が変更になると知った時は、寂しい気持ちでいっぱいでした。

ARVO は、全世界の眼科学研究者 1 万人以上が集まり 6,000 演題の発表が 5 日間に渡って行われる、最大規模の眼基礎研究の学会です。日本からも 500 人以上が参加していると言われています。眼という小さな臓器とはいえ、角膜から水晶体、網膜、視神経など様々なセクションに分かれており、毎日のように多岐に渡る内容のシンポジウムも開かれ、丸一日参加すると疲労困憊になる程の充実ぶりです。

私は、学会前日の 5 月 4 日夕刻に San Francisco 経由で Seattle に到着しました。Fort Lauderdale から開催変更になったことで、ややモチベーションが下がっておりましたが、気温 25 度と湿気も少なく過ごしやすい気候、区画整備の行き届いたダウンタウンと綺麗な夜景を見て、翌日からの発表と会場周辺散策を待ち遠しくなっていました。

今回、私は裂孔原性網膜剥離の術後合併症の一つである増殖硝子体網膜症 (Proliferative Vitreoretino-

pathy : PVR) と Wnt/ $\beta$ -catenin 経路の関わりに関して、『 $\beta$ -catenin signaling in RPE in experimental PVR』の題目でポスター発表を行いました。この発表は、2011 年 4 月から 2013 年 3 月まで米国 University of Louisville Lions Eye Center へ留学する機会を頂き、その留学中の研究の集大成となるものでした。私たちは、大型動物である豚を用いた PVR モデルを開発し、昨年の ARVO2012 で発表を致しました。今回は、そのモデルをベースに FH535 という  $\beta$ -catenin 阻害薬を用いて PVR における Wnt/ $\beta$ -catenin 経路を検討しました。私の発表のハイライトは、 $\beta$ -catenin が CyclinD1 などの増殖に関わるタンパク産生のみならず PVR 発症の重要機序である収縮にも関与していることでした。 $\beta$ -catenin に関連した新薬が PVR 発症抑制に今後繋がる可能性があるかと期待しています。

この学会に参加することの最大の目的は、同じ分野の研究者とディスカッションし、自分の研究について批評をしてもらうことだと思っています。ARVO に参加し始めた当初は、質問されることに怯えながらポスターの前で存在感を消していましたが、昨年くらいからは、その分野の大御所に声をかけてもらいアドバイスをもらったりすることが楽しみにもなってきました。今年も、増殖硝子体網膜症の長である先生からポスターの前で 20 分程度話をしたことが、一つの財産となりました。

実りのある 5 日間の長丁場の学会ですが、一日中会場にいると腰も痛くなり疲れ果ててしまいます。私は、発表の合間を見計らって医局の先生方と少し



Bowing の工場前で後藤教授を囲んで

ばかり観光もしてきました。Seattle といえば、昨年夏まではイチローが所属していた Seattle Mariners で有名でしたが、周知の如く New York Yankees の

一員になってしまいました。他に日本人に馴染みがあるとすれば、B787 である意味脚光を浴びてしまった Bowing 社ではないでしょうか？ 現に東京-Seattle 間の全日空の B787 を用いたフライトは、2月から欠航になっていました。私達は、レンタカーを借りてダウンタウンから 30 分程度で行ける Bowing の工場へ行き、工場見学にも参加してきました。工場内は写真撮影が出来ず残念でしたが、今まさに作り上げている飛行機を間近で見られて、改めてその大きさと緻密さに驚かされました。

真夏の Fort Lauderdale から初夏の Seattle へ場所を移動した今回の ARVO2013 でしたが、様々な最新の知見に触れ、多くの刺激を受ける学会となりました。今回得たものを今後の研究の糧にして参りたいと思っております。このような学会参加の機会を与えて下さった本学及び眼科学教室の先生方にお礼を申し上げます。